

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人さざんか園
(ユニット名)	グループホーム石動
所在地 (県・市町村名)	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町3210番地
記入者名 (管理者)	江頭 久治
記入日	平成 19 年 9 月 20 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
<input type="checkbox"/> 1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	事業所の理念は「地域に開かれた施設であり、地域との交流の手助けに努めます」とし、毎朝事務引継ぎ時に読み上げている。	
<input type="checkbox"/> 2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	管理者は、日々のミーティングで、理念に基づく運営方針を職員に話しており共有化が図られている。	
<input type="checkbox"/> 3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	運営理念はホームの見やすいところに明示し、入居者及びその家族等にわかりやすく説明している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
<input type="checkbox"/> 4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	管理者や職員は部落の清掃活動の参加、近くの商店などの利用、散歩などで気軽に声をかけあい、日常の付き合いができるようにしている。	
<input type="checkbox"/> 5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の一員として自治会、老人会、民生委員会、行事などに参加し、地元の人との交流を図っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者の支援を念等に、地域で役立つことがないか話し合い、部落の清掃活動、空き缶拾い、老人クラブでの介護者教室などに参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価、外部評価の意義を理解するため全員で評価項目を学び、評価を活かして改善点を見出して、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者やサービスの実情、今後のあり方、方針について報告、話し合いをなし、そこで意見を役立てている。	○	運営推進会議での提案により、子供クラブとの七夕会を実施した。今後も提案事項を積極的に取り入れたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者のサービス向上のため、行政との交渉を進め、行政の理解をえて、施設の設置、民生委員会でのサービスの実情の報告などをなしている。	○	町の高齢者福祉計画に添った総合的な対策を推進し、利用者へのサービスの質の向上を図りたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、成年後見人制度について研修をなし、必要な利用者の家族等との話し合いを行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用規約に基づいて、利用者、家族へ十分な説明を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に明るく自由に話せるムード作りを行い、意見及び不満を述べて頂いている。また、利用者の表情の変化に気を配り、様子がおかしいと感じた際は、話しやすい場所に呼び相談に乗っている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>暮らしぶりはGH石動だよりにて毎月報告をし、健康状態、金銭管理については特変時、来園時に報告、また遠方の家族には毎月近況報告を送っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの要望などは常時受け付けており、玄関へ目安箱の設置、運営状況、情報公開可能な資料の設置を行っている。又家族会や面会時等においても気楽な雰囲気のもとで意見を聞いている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月カンファレンスの際に意見を述べる場を設けている。他職員との審議により反映を検討している。又月一回の勉強会(全事業所)等機会あるごとに意見や提案を受け入れ反映させている。面接も年1回は必ず行っている。</p>	<p>○ 職員の意見を匿名で発言できるよう目安箱の設置</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態に応じて話し合いによって職員の時差出勤等なし勤務の調整に努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動はどの事業所でも対応できるよう年に1回数名ずつ行っている。離職も本人の都合上やむおえない場合があるが、前件ではこまめに事業所同士の交流を行うことで利用者へのダメージを軽減している。</p>	<p>○ 離職した職員の再雇用も多いが、更に離職した職員にも時々顔を見せるよう言葉かけが必要。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員への外部への研修への参加、また事業所内の行事などで職員を交代で主に実行委員として参加させている。又勤務表によって毎日のリーダーを決めてリーダーとしての能力向上を図っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他サービス事業所との合同の勉強会による交流。又、講師として招いたり施設見学による交流により介護力の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	出来る限り職員の要望を聞くよう耳を傾け、勤務表作成には予め職員の希望休みを取り入れまた、必要と判断した際要望をかなえるようにしている。	○ スタッフ同士の交流、問題には施設に有害であると判断する場合以外は必要以上に介入しない。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回の賞与に加え、資格取得時の手当でも配っており、スタッフの意欲向上をはかっている。	○ 現在賞与には、人事考課制度を反映させて正職員及び臨時職員に配慮を行っている。今後は、給与面にも反映していきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用する前は管理者が利用者と顔を合わせ、会話する機会を作っている。また、体験入所を2日程行い、利用者間の相性、スタッフとの相性をよく見た上で家族、本人と相談して決めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所に至るまで家族との数回の対話、また時にはケアマネジャーが家族を訪問し家族の思いを聞いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者及び計画作成担当で、大卒を対応している。本人と家族、関係者から事情を聞き、必要とする支援を把握し、他のサービスを紹介したりと、必要とするサービス利用に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の方と相談しながらデイサービスから利用したり、体験入所を図ったりすることで、他の利用者、職員との関わりを深くしたりしている。	○	できるだけ利用者、家族の期待に応じて安心して入所して頂けるよう、管理者及び職員のレベルアップに努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に行う事を基本として実施しているが、時折職員の流れになってしまう事もある。しかし出来るだけ一緒に過ごし、喜怒哀楽を共に築ける様に心掛けている。	○	利用者が心置きなく喜怒哀楽を出せるよう、ふれあいの時間を多く持ちたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月ケアプランを家族の方に見てもらい家族の方にも納得して支援できるように、病気等の異常、異変等には、家族に連絡して対応について話し合うなど、家族とのコミュニケーションを大事にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の話し、家族の情報を大事にし、疑問に思ったことなど家族の方に聞き、より良い関係が築けるように心掛けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の店に買い物にいたり馴染みの場所にドライブに行ったりしている。盆には本人の家族の墓参りにも行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	居間での座席、食卓での位置、車内での席等に考慮している。利用者の散歩買い物などにおいては足の不自由な人の手を取って支え、励ましあっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族は利用者の今後の処遇に不安があり、面接により意思疎通を、継続的な関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や利用者から昔の趣味、嗜好を聞き、実現できるように努めている。入居時の持ち込み荷物は本人、家族の好みに任せている。	○	本人の昔の情報の把握に努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人、面会者などから情報収集を行い、生活歴及び環境等を聞き出すことで把握に努めている。	○	個人ファイルに今までの経歴を記載し、皆がわかるようにする。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	担当制を設けたり、申し送りでのチェックに努めたり、囑託医との連携を密にし、心身状態残存機能の把握に努めている。	○	日々の記録に担当を持って行っている。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、関係医師と話し合い、毎月1回の事業所での職員会議によるカンファレンスで介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員会議での各職員の意見を聞き、見直しを行うと共に、必要な関係者が話し合い、本人、家族に連絡し、新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・誘導を要する人の排泄チェック表、重度の利用者への集中ケア表により把握を行い、便秘については、玄米食、バナナ、セーキ、野菜食により、便秘を防止している。		・カンファレンスでの利用者の情報交換及び記入方法の徹底 ・様式の再見直し及び検討
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスでの週3回行う音楽リハビリ、行事参加、グループホーム同士の交流にてゲーム活動及び趣味活動等、積極的に実施している。	○	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・消防署及び警察との連携を図り、火災予防、事故防止に努めている。・地域の総会及び民生委員会、地区の老人会の参加等、清掃活動及び部落とのふれあいを行っている。・地域の商店を利用することで、地域とのふれあいに努めている。・法人内でのデイ利用により、ボランティア及び地域の方々との交流に努めている。	○	・地域の老人会、婦人会、学生ボランティア等への依頼等も引き続き行っていきたい。 ・行方不明、交通事故防止等への警察との協力体制の継続 ・消防訓練の継続実施
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・福祉用具の購入等、その他のサービスをサービス事業者と相談しながら、支援している。 ・利用者の心身の状態に応じて、他のサービス機関への連携を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・法人内の居宅介護支援事業所を通じて、担当者との相談、利用の受け入れを行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族との相談により、うち6名の利用者がかかりつけ医を統一。現在、2週間に1回のペースで往診をお願いしている。状況においても随時、家族に連絡を行っている。他2名の利用者については、以前のかかりつけ医の対応を希望されたため、家族の通院援助により対応できている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・精神症状が不安定な利用者については、地域の精神科医と連携を図りながら、治療を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・ホーム内の看護師及び、デイサービスの看護師、ホーム職員と連携、相談しながら、日常の健康管理及び医療面での支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院中は毎日面会を行い、病院と連絡調整することで、常に病状把握を行い、退院の際には受け入れ可能にしている。3週間以上の入院の際には家族と病院との話し合いによって今後の入所の有無を決めている	○	今後も医師、看護師と連携をとり、早期退院、ホームでの支援の充実を図りたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・家族の希望に沿って最後をどこで迎えるのかどこまでホームで看れるのか話し合いを持っている。又医師との連携も図っており、又カンファレンスの回数を重ね内容について記録を残している。	○	終末ケアを引き受けることによって、家族の安心を得られているが、今後も引き続き職員のレベルアップを図り、終末ケアの共有を図りたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員の看取りに対する考え方、知識はカンファレンスで話し合っている。重度や終末期における利用者については受け入れの方針である。マニュアルの準備しており、受け入れも可能である。	○	受け入れに備えて的確な知識を身につけ、今後に向けてマニュアルの作成、勉強、情報の周知、徹底を図りたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居前後で管理者、計画作成担当者、家族、居宅ケアマネ、住み替えのサービス事業所の情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全体勉強会で接遇の勉強をし、職員の教育を行っている。一人一人の誇りやプライバシーを損なわれない様にいつも心掛けて介護している。記録などの個人情報の扱いに関してはしっかり保管している。	○	利用者の言葉かけは気を配っているが職員全員に統一できるようにしていきたい。研修資料として利用者の住所、氏名公表は、本人、家族の同意を得ている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	朝のバイタル時や会話の中で何か食べたいのか、どこへ行きたいのか尋ねている。更衣に対しては複数の服の中から選んでもらうようにしている。	○	一人一人の利用者様の自己決定で行われるよう支援して行きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを尊重しその人にあつたペースで買い物、散歩、ドライブ、入浴を支援している。	○	その人にあつたゆとりのある環境づくりに努めたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみや、おしゃれには気を配っているが、馴染みの理容、美容店は遠いところもあるので地域交流のため近所の理容店で行っている。但し、一人の利用者さんに対しては、馴染みの店では帰宅願望が強くなるため、家族からの申し出により中止している。	○	本人の意思を尊重して、理容院を選定していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、利用者の意見を取り入れて、利用者及び職員が食事の準備を行っている。月に数回は利用者様も弁当を作り、同事業所での合同レクに出かけ、喜びを感じてもらおうよう支援している。	○	その人が出来る範囲の見極めをし、多くの利用者に参加してもらえよう支援をしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶に関しては自由に飲めるよう大きなジャーに自由に飲んでくださいと書き記している。おやつについては、買物時に選んでもらうようにしている。又就寝時に枕もとにお茶を置いている。	○	おやつ時間に一緒の物を出しているので、おやつ、飲み物が好みでないものがあるかもしれないので今後考察して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁、失便等が多い利用者に対しては排泄チェック表をもちいて誘導をしている。他の利用者に対しては出かける前や必要に応じて言葉かけを行っている。	○	失禁、失便をなくし、パット、オムツの使用をなくしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後のおやつ後からの入浴で、1日おきになっているが状況に応じていつでも入浴できる。入浴の言葉かけを行い、無理強いはいしていない。就寝前に入浴される利用者もおられる。	○	職員の人員の余裕があれば、入浴の時間帯は気にせず自由に入浴できるように努めていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居間にはソファを設置し、仮眠を取られる方やTV鑑賞ができるゆとりがある空間作りを支援している。	○	利用者一人一人に尋ねどんな空間がゆとりのあるものか探して行きたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、食器洗い、食事の準備、畑仕事、散歩など1日の生活に必要な支援や役割を楽しみながら出来るように支援している。利用者の1人がたけのこ畑を持っており、本人、家族の許可を得て、利用者全員と職員とでたけのこ畑を行い、楽しみを見出した。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ買物時などにお金を渡し欲しい物を買ってもらう様に言葉かけをして実施してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週3回の同法人の事業所への音楽リハビリや近所への散歩、買物を兼ねてのドライブなどしている。	○	利用者様の生活習慣の中で昔の思い出のある場所を見つけていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年2回の家族会にて温泉センターを利用したり日常生活の中で名所ドライブ、外食(地域の食事処)など取り組みをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望する利用者にはしてもらっている。又、家族からの電話の対応はいつでも出来るようにしている。手紙は、本人の能力上困難な利用者が多く出していない。	○	絵手紙教室へ参加し、家族や知人に出すようにしていきたい。年賀状、暑中見舞いなど出すようにしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会が出来、家族から話を聞いたりして、情報交換を行ったり、園での生活の様子を説明している。又居室にてゆっくり話しが出来るようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵を取り付けていない、各部屋の仕切りはふすま障子でしきつてあるが、昼間は玄関のドアに鍵を掛けていない等出入りは自由にしており、職員全員が拘束をしないように理解し実行している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、全職員は、日中、玄関や窓に鍵を掛けないように理解し実行している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	帰宅願望から1人で外に出ることが度々あるが、都度職員が事故がないように、本人が落ち着くまで付き添っている。利用者のプライバシーに配慮しながら所在や安全確認に努めている。特に自由な外出も認めており、外出時は引きとめることなく見守り、付き添いを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	例えば、消毒薬、洗剤、除草剤、除菌剤等、注意の必要な物品は目に付かないようなところに置いたり、手の届かないところに保管されている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれのマニュアルを作り、各人の行動の予測のための勉強会を作り、検討を行っている。年2回火災、防災訓練を行い、研修を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回消防署より来ていただき救急法及びAEDを使用法、人工呼吸の訓練を実施している。緊急連絡表を作り、貼付している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署より来ていただき避難訓練を実施している。又日頃より老人クラブ、地域の清掃等に参加し地域との交流を図り、協力を得られるようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	電話や面会の折、健康状態やリスクについて連絡、説明し家族等には、必要な時、電話や面接により、利用者の健康状態やリスクについて説明し対応策について話し合い安心して頂けるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝必ずバイタルチェックを行い、変化、異変時はすぐ看護師へ伝え、必要があれば医療機関へ受診できるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎朝の事務引継ぎ、月1回のカンファレンスやその他必要な都度、また週1回は嘱託医の往診を受け、体調の早期発見に努めている。誤薬の予防のため、透明の薬入れを用意し、職員が必ず手渡ししている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日夕食は玄米を炊き、畑の野菜又牛乳ジュース等水分補給を十分に配慮している。又音楽リハビリ、買物ドライブ等で体を動かすようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず歯みがき、お茶を利用したうがいを実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えた献立作りを行い、個人の摂取量に合わせた配慮を行っている。1日2回のお茶の時間があり、いつでも水分補給できる様、ポットを設置している。	○	栄養士の力を仰ぎながら、月1回栄養のバランスを確認していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日々の手洗い、消毒、お茶うがい、畳及び布団干し等積極的に行われている。インフルエンザ予防接種も行われている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、布巾などはハイターにつけるなど清潔を保ち、又1日1回の買物により常に新鮮な食材を使用している。	○	整理整頓、清掃にも日々計画的に行っていききたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	周囲には花壇や野菜畑がある。また門には利用者手作りの貼り絵を飾るなど誰もが気軽に訪れられる雰囲気作りがなされている。	○	貼り絵は雨風に弱いので水風に強い工夫を行い、貼り絵が継続して展示できるようにしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の声、テレビ音は丁度良く周りは静かな為、不快な音はあまりない。日当たりの良い窓辺にはレースのカーテンを設置し、直射日光が入らないよう工夫し、居間や廊下には季節に合わせた花の絵や利用者手作りの作品を飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテレビ、ソファ等が配置され、誰もが自由に出入りでき、色々な思い出、時を過ごすことができる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔馴染みのダンス、小物入れを利用し、また家族との思い出の写真、位牌なども持ち込まれて安心して過ごせる場所になっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンが設置されているため、温度計も設置することで個人に応じて部屋の温度調整を行っている。また、外気温によって、窓を開け放し、空気の入替えを行っている。	○	全部屋にエアコンを設置する様検討している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所には手すり、滑り止めが設置されており、室内には自由に行動が出来るが、職員は常に見守りを行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋、トイレ、風呂場等は利用者の目の高さにあわせ表示を行い、場所の混乱を防いでいる。混乱や失敗は職員がやさしい言葉掛けを行い残存能力を生かした対応を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	周囲には広いスペースの中に大きい石があり日向ぼっこ等、利用者の誰もが自由に利用しゆっくりとくつろがれ、楽しんでおられる。周囲は、背振山麓の水と緑に恵まれ、空気も良く静かな場所で散歩を楽しんでいる。	○	月一回程度の外での交流(バーベキュー等)を図りたい

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない



項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・身支度でも料理でも自分で出来ることはなるべくして頂くよう心がけ工夫した言葉かけを行っています。
- ・食事準備、掃除や洗濯等どんな些細なことでもひとりひとりの得意分野を生かした役作りを行っています。
- ・毎日必要に応じて買い物に出たりドライブ、ピクニック、外食と楽しんでいるいただいています。
- ・地域に開かれた施設である為散歩や地元のスーパー、理美容院を利用し、地域との顔なじみを作り交流を図っています。
- ・他にお祭り(ふれあい祭り)を開いたり、雑巾を寄付して頂いたり、子供クラブとの七夕会、地域の会議や清掃作業、敬老会等ではお菓子を作り持って行ったり、地域の方々にグループホームの主旨を十分に理解が得られるよう努めています。
- ・地域の人々に認知症に対する理解を深めてもらい介護のあり方を分かってもらうための介護者教室を開いています。